

アレルギー・膠原病

科目責任者 池田 啓
学年・学期 3学年・3学期

I. 前 文

免疫系は非自己（多くは微生物）と自己を区別し自己を護るシステムである。しかし、時として免疫反応が生体に傷害を与え、また、自己を確認できなくなることがある。アレルギー疾患は前者に基づく疾患で、膠原病の多くは後者の機序による。外因性抗原によるアレルギー性疾患には気管支喘息、花粉症、アナフィラキシーショック、薬剤アレルギー、過敏性肺臓炎などがある。これらの疾患に罹っている人は年々増え総人口の10%以上と言われている。一方、自己免疫は極めて多くの疾患の発症、症状の進展に関与していることが明らかになってきている。しかし、ここでは古典的な膠原病とそれらの周辺疾患を講義の対象とする。

試験は講義で解説した内容をよく理解していれば解答できる問題を出題する。また、正解を公表するとともに、問題の適切性についての意見や設問に関する質問を受け付ける。

II. 担当教員

教授	池田 啓	アレルギー・膠原病内科
教授	有馬 雅史	アレルギー・膠原病内科
准教授	前澤 玲華	アレルギー・膠原病内科
講師	新井 聡子	アレルギー・膠原病内科
准教授	武政 聡浩	呼吸器・アレルギー内科
講師	加藤 正也	小児科
講師	宮本 学	小児科
講師	藤田 優治	小児科
教授	井川 健	皮膚科
講師	鈴木 重成	眼科
教授	平田 博国	埼玉 呼吸器・アレルギー内科
講師	大和田 高義	埼玉 呼吸器・アレルギー内科
教授	知花 和行	日光 呼吸器内科

III. 一般学習目標

学習者は将来、アレルギー・膠原病患者に対して自立的な診療ができるように、アレルギー・膠原病の根底にある免疫異常、個々の疾患の発症メカニズム、病態、臨床症状、検査所見を理解し、診断方法ならびに診断技術、治療方法ならびに治療技術を修得する。学習者は以上のことを認知するだけでなく、言語として表現できるようにする。

IV. 学修の到達目標

- 1) アレルギー・膠原病診療の基礎となる、免疫学に関する十分な知識を有し説明できる。
- 2) アレルギー・膠原病の種類を分類し列挙できる。
- 3) アレルギー・膠原病の根底にある免疫異常について説明できる。
- 4) アレルギー・膠原病の診断法、治療法を列挙し各々について説明できる。
- 5) 個々のアレルギー・膠原病疾患の発症機序、病態、臨床症状、検査所見、診断法、治療法、予防法について説明できる。

V. 授業計画及び方法 * ()内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ, 知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
 2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
 6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	1	20	水	1	免疫・アレルギーの基礎	有馬雅史	1
2	1	20	水	2	シェーグレン症候群, ベーチェット病, その他	新井聡子	1
3	1	20	水	3	気管支喘息 (小児)	宮本学	1
4	1	20	水	4	アレルギー性結膜炎	鈴木重成	1
5	1	20	水	5	アトピー性皮膚炎	井川健	1
6	1	20	水	6	アレルギー性気管支肺アスペルギルス症, 過敏性肺炎	知花和行	1
7	1	22	金	6	アナフィラキシー・薬物アレルギー	平田博国	1
8	1	25	月	5	膠原病総論 I	池田啓	1
9	1	27	水	4	膠原病総論 II	井川健	1
10	1	27	水	5	血管炎症候群	大和田高義	1
11	1	28	木	2	全身性エリテマトーデス	池田啓	1
12	1	28	木	3	関節リウマチ	池田啓	1
13	1	29	金	1	強皮症, 皮膚筋炎, MCTD	前澤玲華	1
14	1	29	金	2	臨床演習	前澤玲華	1
15	1	29	金	3	食物アレルギーと小児アトピー性皮膚炎	加藤正也	1
16	1	29	金	4	小児の膠原病・リウマチ性疾患およびその類縁疾患	藤田優治	1
17	1	29	金	5	気管支喘息 (成人)	武政聡浩	1

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

- 1) 総括的評価 (進級判定のための評価): 学期末に, 認知領域 (知識) について記述試験, 客観試験 (多肢選択方式や単純真偽形式など) を行い, 100%として評価する。受験資格として, 講義回数のうち2/3以上の出席を要する。
 - 2) 形成的評価 (学生や教員が学習課程の改善を目的とする評価): 講義中の質問を随時, 学生や教員側の学習過程に反映させる。
- ※定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅲ」の評価として集計される。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

- 1) 教科書: 「内科学」最新版 朝倉書店
- 2) 参考書:
 - ・「総合アレルギー学」改訂2版 福田健 編, 南山堂

- ・「アレルギー総合ガイドライン：2019」日本アレルギー学会
- ・「リウマチ病学テキスト」改訂第2版 日本リウマチ学会生涯教育委員会, 日本リウマチ財団教育研修委員会 編集, 診断と治療社
- ・「膠原病診療ノート 症例の分析 文献の考察 実践への手引き」第4版 (2019) 三森明夫 著, 日本医事新報社
- ・Eular Textbook on Rheumatic Diseases, 3rd ed. (2018) : BMJ PUBLISHING GROUP
- ・Basic Immunology: Functions & Disorders of the Immune System, 6th ed. (2019) : ELSEVIER

VIII. 質問への対応方法

随時受け付ける。ただし、事前に秘書を通じ、アポイントを取る。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	○
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験における疑問点等について回答・討議する場を設ける。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載

XII. コアカリ記号・番号

PS-03-02-01, PS-03-02-02, PS-03-02-03, PS-03-02-04, PS-03-02-05